

ディスクロージャー誌
2020年度上半期

J A あかし

目 次

あいさつ	1
J Aのプロフィール	2
1. 経営理念	2
2. 経営方針	3
3. 事業活動のトピックス	4
4. 農業振興活動	6
5. 地域貢献情報	7
6. 事業の概況（令和2年度上半期）	9
(1) 事業実績の推移	10
(2) 有価証券の時価情報	10
(3) 自己資本比率（単体）	11
7. 金融再生法開示債権区分に基づく保全状況	11

あいさつ

日頃、皆さまには格別のご愛顧をいただき厚く御礼申し上げます。

J Aあかしは、情報開示を通じて経営の透明性を高めるとともに、当J Aに対するご理解を一層深めていただくために、当J Aの主な事業の内容や組織概要、経営の内容などについて、利用者のためにわかりやすくまとめた「ディスクロージャー誌2020年度上半期」を作成いたしました。

皆さまが当J Aの事業をさらにご利用いただくための一助として、是非ご一読いただきますようお願い申し上げます。

今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

あかし農業協同組合
代表理事組合長 古河 克規

JAのプロフィール

◇設立	平成4年10月
◇本店所在地	明石市大久保町駅前1丁目7-4
◇出資金	4億2千万円
◇総資産	1,980億3千万円
◇組合員数	10,621人
◇役員数	18人
◇職員数(パート含む)	90人
◇支店	5店舗 (大久保支店、江井ヶ島支店、大久保北支店、西明石支店、明石東支店)
◇直売所	3店舗 (フレッシュ・モア大久保店・西明石店・大久保駅前店) 共同運営店舗 1店舗 (JAファーマーズプチ・フレッシュ・モア江井ヶ島)

1. 経営理念

- JAあかしは、農業振興を通じて、「食」と「農」と「緑」を守り、かけがえのない自然を次世代に引き継ぎます。
- JAあかしは、地域のみなさまとともに生き、地域のみなさまとの共感の中で、心ふれあう地域づくりに取り組みます。
- JAあかしは、高い倫理観と責任感を持ち、地域社会に貢献できる事業と組織づくりに取り組みます。

〔基本理念〕

JAあかしは、人と自然を大切にし、社会の発展と豊かな暮らしの実現に貢献してまいります。

◇ JAあかしは、人を大切にします。

◇ JAあかしは、自然を大切にします。

◇ JAあかしは、社会の発展に貢献します。

◇ JAあかしは、豊かな暮らしの実現に貢献します。

〔基本姿勢〕

◇ みなさまから信頼される JA

◇ 地域から必要とされる JA

◇ 社会に誇れる JA をめざします。

2. 経営方針

◇農業振興と地域社会への貢献

農業をめぐる環境は農業従事者の高齢化等極めて厳しい状況になっています。JAには、地域農業の特性を活かした基本目標を設定し、これらの実践を通じて農家所得の向上、地域の活性化等が求められます。当JAは、「夢と活力ある農業・地域社会」の実現のため、地域特性を活かした農業振興と心のゆたかさを実感できる生活環境の提供に努めます。

◇組合員と消費者の満足度向上

JAは日常生活のあらゆる場面に密着した事業を営んでいます。各種商品やサービスが多様化・高度化するなかで、利用者のニーズは安全、安心でかつ健康志向になってきており、またゆとりを重視する傾向が見られます。当JAは、JAが提供するサービスの質を高め、組合員と消費者のニーズに応えた、真心のこもった商品・サービスの提供に努めます。

◇信頼と期待に応える経営

効率的・効果的な事業運営を徹底します。当JAは、「強靱な経営体質」と「透明感のある組織運営」を構築するため、財務体質の健全性向上に努め、リスク管理態勢の確立とコンプライアンスを重視した職場づくりに取り組みます。

3. 事業活動のトピックス（令和2年度上期）

J Aあかしでは、持続的な地域農業の維持・振興とくらしやすい地域社会の実現に向けて、総合事業の展開により、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標とする自己改革に取り組んでいます。

○農業者の所得増大に向けた取り組み

取り組み	具体的な内容	取り組み状況
販売力強化による農業者の収入増加	新たな販路の開拓	➤ 明石市ふるさと納税返礼品にJ Aあかしブランド米「花美人」が選定されました。
	新たな農業設備投資への助成	➤ 農業設備(ビニールハウス)投資への助成・支援を行っています。 ➤ 兵庫県の農業施設貸与事業の利用支援を行っています。
	信用事業からの農業設備投資に対する融資等の支援活動	➤ 信用事業の面から地域農業の活性化に貢献すべく、農業融資に対して独自の利子助成制度を設けています。また、農業金融プランナーの育成に取り組んでいます。 [令和2年9月末現在] アグリマイティーマネージャー 13件 農業融資プランナー 20人
	直売所の拡充	➤ (株)クローバーファームJ Aあかしと連携し、魅力ある農産物の提供を図っています。 ➤ エーコープ近畿との直売事業共同運営店舗(J Aファーマーズプチ・フレッシュ・モア江井ヶ島)を展開することで、地産地消に取り組み販売強化を図っています。
農業者のコスト低減	育苗コストの低減等	➤ 肥料・農薬等の予約取りまとめによりコスト低減に取り組んでいます。

○農業生産の拡大に向けた取り組み

取り組み	具体的な内容	取り組み状況
特産振興・産地づくりの取り組み	直売所を軸とした販売力強化	➤ スイートコーンの栽培面積拡大やブロッコリー収穫量増大への支援、出荷用資材の導入、対面販売を実施しています。

○地域活性化への取り組み

取り組み	具体的な内容	取り組み状況
地域のコミュニケーションづくり	地域の皆さんとふれあうイベントを開催	<ul style="list-style-type: none"> ▶ (株)クローバーファーム J Aあかしと連携して、各種農業体験イベントを開催しています。 ▶ 地域の子ども達のために、いつでも農業体験ができる態勢を整えました。 ▶ 地元の介護施設等と連携し、健康管理、介護・相続といったセミナーを開催しています。
	サークル活動を支援し、地域のコミュニケーションづくり	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 地域のコミュニケーションづくりの場として、各種サークル活動を支援しています。 (3 B体操、料理教室、リトミック・発声教室等)
地域の活性化	子育てサポートのため「明石市子ども基金」へ寄付	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 毎年、子どもサポート定期貯金キャンペーンを実施しており、お預かりした定期貯金の残高に応じた寄付を「明石市子ども基金」へ行っています。

○その他の重点取り組み

取り組み	具体的な内容	取り組み状況
農業経営者に対するサポート強化	農業電子図書館（情報提供システム）を設置、運用を開始	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 農業経営者に対するサポート強化のため、支店・直売所全店に農業電子図書館（情報提供システム）を設置し、活用をいただいています。
地域農業の維持・振興への取り組み	J A出資による農業法人を設立 (平成 29 年 10 月 2 日設立)	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 農業法人「(株)クローバーファーム J Aあかし」が活動を行っており、地域農業の担い手となる農業法人を目指しています。

<ご案内>

イベント、商品紹介、事業等については当 J A の広報誌「フレッシュ！ J A あかし」やホームページでもご案内しております。

ホームページアドレス <http://www.ja-akashi.or.jp/>

4. 農業振興活動

J Aあかしは、協同組合として組合員の「営農と暮らし」を守り、「農業者の所得増大」や「農業生産の拡大」を達成するため、地域農業の振興を図るとともに、農業を通じた豊かな地域社会の発展を目指して、次のような農業振興活動に取り組んでいます。

① 安全・安心な農産物づくりへの取組み

生産履歴記帳運動（トレーサビリティ）に取り組み、安全・安心な農産物の提供に努めています。

② 部会組織の育成・支援

地域農業の担い手として、部会組織の育成・支援をすすめています。

③ 地産地消の取組み

管内3ヶ所にファーマーズマーケット（農産物直売所）を設置し、2019年6月には(株)エコーブ近畿との共同運営店舗「J Aファーマーズプチ・フレッシュ・モア江井ヶ島」をオープン、地域の消費者に新鮮で安全・安心な農産物の提供に取り組んでいます。

④ 食育の取組み

野菜収穫体験を通じて、子供たちに食と農の大切さを伝えています。

⑤ 新たな農業施設投資への助成

J A独自の農業施設（ビニールハウス）投資への助成と県補助事業を利用し、施設整備に取り組んでいます。

⑥ 信用事業からの農業投資に対する融資等の支援活動

信用事業の面から地域農業の活性化に貢献すべく、農業融資に対して独自の利子助成制度を設けています。

5. 地域貢献情報

J Aあかしは、協同組合活動の原点である「組合員の営農と暮らし」を守り、地域農業の振興に努めるとともに、地域社会の発展に貢献するため様々な活動を展開しています。

1. 社会貢献活動

- ①偽造キャッシュカード・振り込め詐欺対策
- ②環境創造型設備等導入の住宅に対する住宅ローン利用者への助成
- ③こどもサポート定期貯金募集（貯金額に応じて明石市こども基金へ寄付）
- ④環境問題への取り組み
 - ・省エネルギーを実践するため、「クールビズ」の実施
- ⑤農業体験活動の取り組み

2. 地域貢献活動

(1) 地域からの資金調達状況

- ① 貯金残高（令和2年9月末現在）

（単位：百万円）

種 類	残 高
当座性	47,356
定期性	137,571
小 計	184,928
譲渡性	—
合 計	184,928

(2) 地域への資金供給状況

- ① 貸出金残高（令和2年9月末現在）

（単位：百万円）

種 類	残 高
農業近代化資金	—
その他制度資金	—
農業関連融資	23
事業関連融資	6,512
住宅関連融資	27,095
生活関連融資	459
その他	67
合 計	34,159

(3) 文化的・社会的貢献に関する事項

- ① 福祉活動
組合員・地域住民を対象とした健康診断活動に取り組んでいます。
- ② 職員の地域貢献への参加

職員においては、地元町内会の清掃活動をはじめとした社会活動に積極的に参加し、地域に根ざした活動を実践しております。

3. 地域密着型金融への取り組み（中小企業等の経営の改善及び地域の活性化のための取り組みの状況を含む）

（1）農業者等の経営支援に関する取り組み

当JAは、「人と自然を大切にし、社会の発展と豊かな暮らしの実現に貢献」という経営理念のもと、農業者をはじめ地域の皆様に利用される総合事業体として営農・経済事業や金融機能のみならず、環境・文化・福祉といった面も視野に入れた事業・活動を行っています。

なかでも、農業者等の経営支援を重点取り組み事項の1つとして位置づけ、農業技術・生産性向上に向けた各種研修会等を開催するほか、低利の農業関連融資を活用していただくための普及・推進活動にも取り組んでいます。

（2）農業者等の経営支援に関する態勢整備

県の改良普及センターと連携して、各種研修会、相談会を実施、農業者の農業技術・生産性向上に向けた支援活動を行っています。

（3）持続可能な地域農業と地域への貢献

地域密着型のJA運営、農産物直売所の運営等を通じ、組合員、地域住民、消費者等のニーズを把握し、より身近な事業運営を行っています。

6. 事業の概況（令和2年度上半期）

日本経済は、新型コロナウイルス感染症の影響から、個人消費やインバウンド需要の減少、企業も設備投資を先送りする動きが出ており、今後の動向については、先行き不透明な状況が続いています。また、政府の農協改革集中推進期間は昨年5月末の期限をもって終了しJAグループの自己改革に一定の評価が示されましたが、新たな規制改革推進会議の重点的フォローアップ事項では信用事業の健全な持続性確保が課題とされました。

このような情勢のなか、JAは堅実で健全な経営を基本理念として、次のことに取り組みました。その結果、令和2年9月末日現在の当期剰余金は381百万円となりました。

1. 信用事業

住宅ローンについては定番商品となりました「あんしん家計（貯金連動型住宅ローン）」を積極的にPRし、地元住宅業者との連携を深めると共に利用者のライフイベントに応じた提案活動を実施しました。その結果、実行金額20億円、期首来2.8%の増加と順調に推移しております。

また、投資信託やつみたてNISAなど資産運用取引のお取り扱いや、相続・遺言等相談業務も含め、総合的に組合員・利用者のライフプランサポートに取り組んでいます。

2. 共済事業

「3Q訪問活動」を展開し、組合員・利用者・地域の皆様お一人お一人の人生設計をサポートするため「ひと・いえ・くるま」の総合保障の提案に取り組みました。この結果、長期共済の新契約は、9月末現在で85.6億円の実績となり、内建物更生共済においては79.3億円のご契約を頂きました。

今後も、農業協同組合が理念とする「相互扶助」を事業活動の原点とし、皆様の信頼に応えられるよう「安心」と「満足」をご提供いたします。

3. 購買事業

組合員のニーズに合った購買品の廉価供給をはかるため、予約購買に取り組みました。この結果、購買品供給高は、9月末現在で4,830万円の実績となりました。

4. 販売事業

農産物直売所（フレッシュ・モア）を通じて、地元の新鮮で安全・安心な農産物の提供に取り組みました。

また、ヘアリーベッチ（マメ科ソラマメ属の1年草）を使って、減化学肥料、減農薬栽培に取り組んだお米に「ひょうご安心ブランド農産物」として、兵庫県からの認証を受け、JAあかしブランド米「花美人」として販売、普及に取り組みました。

5. 指導事業

(1) 水稲病害虫発生予察・野菜病害虫発生予察情報を各農家に配布し、適期防除

と減農薬栽培に努めました。

(2) 支店相続リーダーを配置し、組合員向けの相談窓口を強化しました。また、毎月顧問税理士による指導・助言を行いました。その他、JAバンク兵庫と連携し、相続遺言等個別相談会を隔月で開催し、資産活用や遺言作成等の多様な相談に対応致しました。

6. 利用事業

稲作農家の水稻苗の農作業効率を高める為に、水稻苗の軽量化、保水性の優れたマット苗に取り組み、水稻苗を10,358箱出荷しました。

(1) 事業実績の推移

(単位：百万円)

		令和2年9月末	令和2年3月末	令和元年9月末
信用事業	貯金	184,928	183,537	184,451
	貸出金	34,159	33,226	32,438
	預金	155,394	154,254	157,308
	有価証券	395	295	295
共済事業	長期共済保有高	113,269	114,302	115,542
	長期共済新契約高	8,561	15,718	10,711
	短期共済新契約高	10,968	35,668	16,167
経済事業	購買品供給高	48	77	51
	販売品販売高	70	160	66
	(直売所販売高)	(122)	(205)	(101)

(2) 有価証券の時価情報

(単位：百万円)

保有区分	令和2年9月末			令和2年3月末		
	取得価額	時価	評価損益	取得価額	時価	評価損益
売買目的	—	—	—	—	—	—
満期保有目的	395	415	20	295	323	27
その他	—	—	—	—	—	—
合計	395	415	20	295	323	27

(注) 1. 時価は市場価格等によっております。

2. 取得価額は取得原価又は償却原価によっております。

3. 満期保有目的の債券については、取得価額を貸借対照表価額として計上しております。

(3) 自己資本比率（単体）

令和2年9月末	令和2年3月末（参考）
19.19 %	18.69 %

7. 金融再生法開示債権区分に基づく保全状況

（単位：百万円、％）

債権区分	令和2年9月末	令和2年3月末
破産更生債権及びこれら に準ずる債権	—	—
危険債権	—	—
要管理債権	—	—
小 計（A）	—	—
保全額（合計）（B）	—	—
担 保	—	—
保 証	—	—
引 当	—	—
保全率（B/A）	—	—
正常債権	34,171	33,241
合 計	34,171	33,241

(注) 1. 上記の債権区分は、「金融機能の再生のための緊急措置に関する法律」（平成10年法律第132号）第6条に基づき、債務者の財政状態及び経営成績等を基礎として、次のとおり区分したものです。

①破産更生債権及びこれらに準ずる債権

法的破綻等による経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

②危険債権

経営破綻の状況にはないが、財政状況の悪化等により元本および利息の回収ができない可能性の高い債権

③要管理債権

3か月以上延滞貸出債権（元金又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3か月以上延滞している貸出債権）および貸出条件緩和貸出債権（経済的困難に陥った債務者の再建又は支援を図り、当該債権の回収を促進すること等を目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行った貸出債権）

④正常債権

上記以外の債権